

令和4年度第1回富山県環境審議会 議事録（概要）

1 富山県環境審議会の組織・運営等について

・会長の選出

竹内委員が齋藤委員を会長に推挙し、異議なく選出された。

・副会長の選出

齋藤会長が楠井委員を第1順位副会長に、加賀谷委員を第2順位副会長に推挙し、異議なく選出された。

・各専門部会に所属する委員等及び専門部会長の指名

齋藤会長が7つの専門部会に属する委員等と専門部会長を指名した。

2 ニホンザル管理計画の改定について（諮問）

事務局が諮問内容について説明し、審議が行われた。その結果、野生生物専門部会に付議して調査審議することとされた。

【質疑応答】

(委員)

管理計画の改定について、非常に緊急を要するというのが理解される。管理計画の基本としては、被害防除、生息環境管理、個体群管理とあるが、特に個体群管理に影響のあるモニタリング調査については、県が担う役割となっており、調査体制の充実を図っていただきたい。

(委員)

生息状況のデータを幅広く集めるという観点から意見を述べる。自分は黒部川扇状地の末端に住んでおり、サルの被害を受けている立場でもある。サルは新幹線や高速道路を越え、より下流域の畑を荒らしている。

管理計画の策定に当たり、農業被害のデータは相当集積されている。一方で、家庭菜園や生活環境の被害は実際たくさんあるが、情報が蓄積されておらず表に出てこない。市民参加というか、そういう被害状況、出没情報を行政に集める仕組みを作り、管理計画に反映させてはどうか。ビッグデータが集まるので、より正確な出没情報、行動範囲を把握できるので検討いただきたい。

(事務局)

ニホンザルのすべての群れを網羅することは困難であるが、軋轢の生じている群れの把握に努めてまいりたい。

家庭菜園などの被害についても市町村などから情報収集に努め、どのような仕組みでできるか検討していきたい。

(会長)

冬の宇奈月温泉でサルがたくさん生息し、何度もサルが目撃されている。威嚇され被害に遭われたりもしている。個体数もかなり増えていると思う。被害や群れについて把握してもらいたい。

(委員)

被害状況の把握について意見が出ていたが、野生生物専門部会の部会長として申し上げますと、被害の把握についてはこれまでそれなりに実施されていて、6月に開催された野生鳥獣保護管理検討委員会でも報告されたところである。今回の改定の大きなポイントとしては、第5期計画を策定するにはまだはっきりしていなかった県西部における出没や被害がはっきりしてきたので今後この管理計画にどう反映し含めるかということで付議させていただくということも補足させていただく。

3 その他

事務局から環境に関する県の施策について、今年度の新規事業を中心に説明を行った。

【質疑応答なし】